

平成 29 年度
事業活動報告書

社会福祉法人いちょうの森

もくじ

法人本部（役員会開催）	-----	1
ライフワークぎんなん（生活介護）	-----	5
ライフワークぎんなん第1（短期入所・日中一時）	-----	7
ライフサポートぎんなん （居宅介護・重度訪問介護・移動支援・福祉有償運送）	-----	8
夢(ム)・夢(ム)・夢(ム)（グループホーム）	-----	9
W o r k & O a s i s 花筏（就労継続支援B型）	-----	10
ふふふ（就労継続支援B型）	-----	12
給食	-----	13
事務	-----	17

法人本部（役員会開催）

【理事会】

①第1回理事会

実施日：平成29年4月19日（水曜日）19:00～19:30

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事6名、オブザーバー1名

議 案：第一号議案 共同募金配分金（赤い羽根助成金）決定

第二号議案 障がい者サービス事業所「ナチュラ（仮称）」

建設土地（長滝1164番地）造成工事入札について

②第2回理事会

実施日：平成29年5月31日（水曜日）18:00～19:30

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事6名、オブザーバー1名

議 案：第一号議案 平成28年度事業報告書（案）

第二号議案 平成28年度事業決算書（案）

第三号議案 役員報酬基準の決議

報 告：第一号報告 監事監査報告

③第3回理事会

実施日：平成29年6月21日（水）18:00～18:20

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事6名、監事1名、オブザーバー2名

議 案：第一号議案 理事長の選定に関する件

④第4回理事会

実施日：平成29年7月5日（水）18:00～19:00

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事5名、監事1名、オブザーバー3名

議 案：第一号議案 福祉医療機構借入

⑤第5回理事会

実施日：平成29年8月16日（水）18:00～19:30

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事4名、監事1名、オブザーバー2名

議 案：第一号議案 今後の事業運営構想について

第二号議案 苦情対応規程について

報 告：第一号報告 リクスマネジメントについて

第二号報告 サービス管理責任者資格取得について

⑥第6回理事会

実施日：平成29年9月20日（水）17:30～19:00

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事5名、監事1名、オブザーバー2名

議 案：第一号議案 福祉医療機構借入における担保提供について

第二号議案 理事長の専決事項について

報 告：第一号報告 現場報告

第二号報告 法人の運営状況

⑦第7回理事会

実施日：平成29年10月18日（水）17:30～19:45

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事6名、監事1名、オブザーバー2名

議 案：第一号議案 福祉医療機構借入における担保提供について（建物）

第二号議案 定款変更について

報 告：第一号報告 グループホームの敷地における生活介護事業運営について

第二号報告 労働基準監督署の調査報告

⑧第8回理事会

実施日：平成29年11月1日（水）17:30～19:00

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事6名、監事1名、オブザーバー2名

議 案：第一号議案 評議員選任・解任委員について

第二号議案 評議員選任・解任委員会細則について

第三号議案 評議員候補者及び評議員選任・解任委員会の開催について

第四号議案 役員賞与について

第五号議案 コーチング研修について

第六号議案 下瓦屋231-1における介護保険による通所介護事業所の開設試案について

報 告：第一号報告 定款変更について

第二号報告 短期入所の女性従業員の確保状況確認

第三号報告 花筏の商品について

⑨第9回理事会

実施日：平成29年12月6日（水）17:30～19:00

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事5名、監事1名、オブザーバー1名

議 案：第一号議案 経理規程の改訂について

第二号議案 複合機リース契約について

⑩第10回理事会

実施日：平成29年12月20日（水）17:30～19:30

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：理事8名、監事1名

議 案：第一号議案 理事会メンバーによる役割の遂行状況と新理事を含めた各理事の役割の見直し（再検討）及び役員報酬規程改訂について（理事長）

⑪第 11 回理事会

実施日：平成 30 年 1 月 10 日（水）14:30～15:30
場 所：ライフワークぎんなん 役員室
出席者：理事 7 名、監事 0 名
議 案：第一号議案 銀行のつなぎ融資について
 第二号議案 ぎんなんの食堂改装について

⑫第 12 回理事会

実施日：平成 30 年 1 月 24 日（水）17:30～19:00
場 所：ライフワークぎんなん 役員室
出席者：理事 5 名、監事 0 名
議 案：第一号議案 重要な役割を担う職員の選任（法第 45 条の 13④）
 第二号議案 組織変更（昇格人事）
報 告：第一号報告 各理事からの報告
 第二号報告 ナチュラ竣工式案内リスト報告

⑬第 13 回理事会

実施日：平成 30 年 2 月 21 日（水）17:30～19:00
場 所：ライフワークぎんなん 役員室
出席者：理事 7 名、監事 1 名
議 案：第一号議案 理事報酬改定について
報 告：第一号報告 ナチュラ竣工式について

⑭第 14 回理事会

実施日：平成 30 年 3 月 28 日（水）17:30～19:00
場 所：ライフワークぎんなん 役員室
出席者：理事 8 名、監事 1 名
議 案：第一号議案 平成 30 年度事業計画（案）
 第二号議案 平成 30 年度予算（案）
 第三号議案 理事月額報酬について
 第四号議案 定款変更について
 第五号議案 理事会開催頻度について
報 告：第一号報告 各理事からの報告

【評議員会】

①第 1 回評議員会

実施日：平成 29 年 4 月 19 日（水）18:00～18:30
場 所：ライフワークぎんなん 役員室
出席者：評議員 6 名 オブザーバー 1 名
議 案：第一号議案 共同募金配分金（赤い羽根助成金）

②第2回評議員会

実施日：平成29年6月14日（水）18:00～19:00

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：評議員5名 オブザーバー2名

議 案：第一号議案 平成28年度事業報告書（案）

第二号議案 平成28年度決算報告書（案）

第三号議案 役員任期満了による改選の件

第四号議案 役員報酬基準の決議

③第3回評議員会

実施日：平成29年10月26日（水）18:00～19:30

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：評議員5名 理事2名 オブザーバー1名

議 案：第一号議案 評議員及び理事の定数変更の件

第二号議案 理事会の決議による理事又は監事の責任の免除に関する規定を定款変更
に追加する件

④第4回評議員会

実施日：平成29年12月14日（水）18:00～18:30

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：評議員7名 理事2名 オブザーバー1名

議 案：第一号議案 理事選任

【評議員選任解任委員会】

①第1回評議員選任解任委員会

実施日：平成29年11月30日（木）19:00～19:45

場 所：ライフワークぎんなん 役員室

出席者：選任解任委員3名 理事2名 評議員候補者2名

議 案：第一号議案 評議員の選任について

ライフワークぎんなん（生活介護）

【目 標】

- ①利用者通所率 85%以上を目指す
- ②従業員の適材適所を中心とした固定化（専門性追求）を目指す
- ③利用者の社会参加として施設及び周辺美化活動の定着を目指す

利用者通所率について（事業定員 60 名／契約利用者 50 名）

平成 29 年度						平成 28 年度		
月	利用者数	開所日数	延人数	1 日当り	通所率	延人数	1 日当り	通所率
4	57	22	1,044	47.5	83.3%	1,016	46.2	82.5%
5	57	22	1,070	48.6	85.3%	987	47.0	82.5%
6	57	24	1,165	48.5	85.2%	1,109	46.2	82.5%
7	54	22	970	44.1	81.6%	1,051	47.8	85.3%
8	53	21	910	43.3	81.8%	1,093	47.5	84.9%
9	52	23	1,014	44.1	84.8%	1,009	48.0	85.8%
10	53	23	1,008	43.8	82.7%	1,046	47.5	86.4%
11	52	22	923	42.0	80.7%	1,013	46.0	79.4%
12	51	22	940	42.7	83.8%	1,018	46.3	81.2%
1	49	20	811	40.6	82.8%	953	45.4	79.6%
2	49	21	859	40.9	83.5%	972	44.2	78.9%
3	50	23	969	42.1	84.3%	1,069	44.5	81.0%
平均	52.8	22	974	44.0	83.3%	1,028	46.4	82.5%
計	634.0	265	11,683	528.2	83.3%	12,336	556.7	82.5%

利用者入所 5名 退所 10名 花筏へ異動 1名

①利用者通所率 85%以上を目指す

4月から8月までに支援員の退職者が5名、7月より体制の見直しを含め利用者支援の安定を図った。結果として9月以降、利用者が安定して通所できる体制に近づけることができた。

- ・利用者主体（参加型）の活動に目標を設定し取り組んだ
活動の幅を広げるために新しいことにチャレンジの1年であった。
公共施設を利用したプール（アクアリラク活動）、新利用者入所歓迎式、法人盆踊り（14時～20時）法人もちつき等、土曜日通所に合わせた形で利用者の楽しみを広げることができた。
その他、映画祭や「さをり」とお茶会で（厨房企画でコラボ）花を活ける等、文化に触れながら楽しむ時間を提供できた。
- ・各班旅行を法人初全体で行く形をとり、支援者及び関係者を含め137名で行った。
普段、一緒に過ごすことのない利用者同士が食事や入浴の時間を過ごし互いに良い刺激を感じていた様子や事業としても班を越え利用者の選択したニーズを取り入れた旅行の実現に近づけた。

- ・ご家族との関係を深めるため（家族会に提案し実現）支援参観を行った。
ご家族が活動の様子を確認できることや従業員とのコミュニケーションを深めることに繋がった。
来年度も継続し行いご家族の力も事業所、また支援に活かせるよう進める。

②従業員の適材適所を中心とした固定化（専門性追求）を目指す

- ・2F 自閉傾向のあるグループ及び1F 医療的ケアが支援として必要なグループに関しては従業員を固定化し支援を進める体制をとった。特に1Fに関してはPT指導のもと利用者の寄り添った非言語コミュニケーションに着目し利用者の発信に支援者が気づき支援する等、基本的な形が定着した。本来の働きかけを行い利用者とのコミュニケーションという形も確認できた。
- ・法人外部講師3名（田中講師、山本講師、毛戸講師）による支援者への指導及び支援フォローにより利用者が必要とする支援へのきっかけや支援者としてのスキルアップに繋がる指導、刺激により活動部屋の環境や活動プログラムの見直しを行ったことで利用者の変化を確認でき、新たな支援に繋がられたケースがあった。
- ・新人従業員の指導担当を決め新たに入った従業員の教育、定着を目的に進め、新職者の相談を中心に事業所で導ける環境をつくったことでその間に6名が入職し4名（2名が退職）が定着した。
- ・リーダー育成に関してはPDCAサイクルを身につけることや報連相という基本的なツールを活用し進めることができず支援統一や情報共有、緊急時対応、支援改善に結びつける働きが見られなかったがリーダー同士が集まり施設外でのコミュニケーション機会（月1～2回）を設け、リーダーの悩みや相談をそのチームで共有し意見することで個人からチームへの意識変化がみられた。結果として、リーダー同士がフォローし合い進めるというチーム意識からモチベーションアップに繋がり支援に関しても個人で考える事からチームで考えるという形がリーダーには浸透した。

③行政への事故報告

10/11(土)	転倒骨折	利用者さんが立位中、他の利用者さんがぶつかって転倒し、鼻骨骨折。
10/11(土)	手指骨折	滑り台の手すりに左手をぶつけ、小指を骨折。
2/9(月)	転倒骨折	散歩中に転倒しかけた利用者を支えるため、利用者の左手を支援員が強く握ったことによる指骨折。

ライフワークぎんなん第1（短期入所・日中一時）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
日中一時	稼働率	160%	152%	187%	155%	130%	122%
	実人数	17	22	18	18	15	14
	延べ人数	96	94	112	96	73	73
短期入所	稼働率	89%	72%	78%	77%	72%	82%
	実人数	39	41	42	43	41	43
	延べ人数	161	133	140	144	121	148

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
日中一時	稼働率	155%	163%	126%	119%	148%	166%	148.6%	-
	実人数	17	13	16	16	17	19	16.8	-
	延べ人数	96	98	78	74	83	103	89.7	1,076
短期入所	稼働率	78%	72%	76%	75%	85%	91%	78.9%	-
	実人数	43	40	38	38	36	40	40.3	-
	延べ人数	146	130	141	139	142	169	142.8	1,714

【体制づくり】

夜間支援員の人材確保に時間を要し特に9月以降、人材派遣及び法人関係者の知り合い等に声をかけると共に生活介護従業員の協力もあり利用者の依頼を受けることが出来る体制及び支援基盤の確立にむけ、きっかけをつかむことが出来た。

特に学生夜間従業員の割合が高いことから支援の質や勤務の安定を欠き利用者の安心に繋げる事が困難であったため、夜間学生従業員の割合を下げ（約65%⇒約45%）一般夜間従業員の採用及び配置に力を入れ進めた。結果として従業員の安定的な配置が可能となり利用者依頼を受けられる環境を整えるに繋がった。事業として最も必要とされる緊急時利用については100%の依頼を受けることができた。

【人材育成】

人材育成については、従業員の入替えりや指導不足により基本的な業務の統一、さらには生活介護従業員からの引継ぎを主とし進めたことにより各利用者が必要とされる夜間支援を実践できる従業員が増えた。しかし、事業全体としての支援情報の蓄積等、個人に頼る支援体制であることには変わりなく今後も継続し支援員への指導、研修教育を通し質の向上を目指す。

【課題】

支援事故等に対して事業としての把握や対策を含め改善に向けたスピードが遅く利用者ご家族からの苦情が多かった。この点に関しても報連相の徹底を更に図り事業として全体的な底上げが必要であることが浮き彫りとなった。

人材についても夜間学生従業員の割合をさらに下げ安定して利用者の依頼を受けることが出来る体制に向け力を入れる。

ライフサポートぎんなん

(居宅介護・重度訪問介護・移動支援・福祉有償運送)

【年間実績時間】

29年度	月目標時間	月平均	目標達成率
居宅介護	230	135.7	59.0%
(身体)	150	73.8	49.2%
(通院)	70	59.4	84.8%
(家事)	10	2.5	25.2%
重訪訪問	170	165.0	97.1%
移動支援	500	347.6	69.5%
計	900	648.3	72.0%
有償運送	54	55.9	103.1%

【取り組みと結果】

①目標時間の内訳

『居宅支援 230 時間 (32%) + 重度訪問 170 時間 (23%) + 移動支援 330 時間 (45%)』を掲げ、事業の継続的な運営と利用者ニーズに応えるため各時間を設定した。毎年増加傾向にある居宅介護のニーズに応える形で総支援時間割合を身体介護へとシフトし稼働した結果、『居宅 21%・重度訪問 25%・移動支援 54%』となり、28年度と比べると『居宅▲5%・重度訪問+11%・移動支援▲6%』となった。

②利用者のニーズと満足度を把握し支援の質を向上させる

利用者の各計画書の見直しを目標に進めたが支援変化をうめるケースがなくヘルパー個人に頼る支援が継続され人材を確保及び支援者を増やすために必要な聞き取りにも偏りがあった。

サービス提供責任者の支援を管理する時間確保ができなかったことが大きく、依頼を受ける事を優先し進める事はできたが質の向上に繋げる事はできなかった。

重度訪問に関しては緊急の通院等のご家族からの依頼に対して対応することができた。

③人材確保と育成

事業所の方針や能力を踏まえた上で各利用者支援を進める力を兼ねるサービス提供責任者の育成を目標におき進めたができなかった。このことに関しては管理者の力量や能力不足が原因でありその結果として管理者との方針の統一を含めた現状からの変化に対しての課題共有等が進められず新たな人材確保もできなかった。

④ヘルパーがサービス提供責任者に報告、連絡しやすい、働きやすい環境作り

サービス提供責任者がヘルパー業務に従事する時間が多く環境としてヘルパー個人に頼る場面が多かった。しかし緊急時やヘルパーの欠員が出た際のフォロー等に関しては対応できた。

事業所からの法人他事業への応援を含め情報発信の弱さが目立ち法人内従業員を含めた支援体制を組めるようになったのは下半期に入ってからであった。その後は、事業として個人からチーム支援を意識した体制で進んでいる。

⑤行政への事故報告

3/18(日)	他傷行為	移動支援中、利用者が買い物客の子供 (1 歳児) を突き飛ばし、負傷させる。
---------	------	--

夢(ム)・夢(ム)・夢(ム) (グループホーム)

入居者定員 9 名 30 年度 3 月末時点で 9 名入居 (男性 6 名 女性 3 名)

月別区分人数(1 日あたりの利用人数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
利用率	59.6	54.5	59.6	58.4	65.9	66.7	68.5	65.9	67.9	59.9	64.8	69.5	63.4
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%

区分	日数	割合
6	1282	62.4%
5	141	6.9%
4	211	10.3%
3	196	9.5%
2	225	10.9%
1	0	0.0%
合計	2055	100.0%

← 1 年間の各区分別入居者利用日数

*入居定員 9 名

30 年 3 月末時点で 9 名入居

男性 6 名 女性 3 名

①入居者利用率が約 15%上昇した

- ・利用率が下がる週末に人員配置及び企画 (バーベキュー、流しそうめん) を行った。
- ・週中での定期移動支援とのマッチングを提案し行った (GH ⇒ 移動支援 ⇒ GH)。
- ・従業員確保と育成、シフトの安定を図ることが出来た (退職者ゼロ)。

②安心できる食事に向け生活介護事業厨房と連携し献立表を作成した

- ・献立表を作るために改めて各入居者の状況を把握 (月 1 回共同会議) し共有できた。
- ・入居者ご家族に対しても安心できる食事つくりに向けての基盤が出来た。

③新たな管理者を育成した

- ・管理者候補の人材に対して必要資格「サービス管理責任者」
「強度行動障害 (基礎)、(実践)」受講取得させた。
現在経過措置ではあるが 30 年 3 月より管理者として配置。
- ・従業員の強みを利用者支援に向け活かす事を軸に個人ではなく事業として支援する事業スタイルを身につけた。

④支援者の意識改革を進めることが出来た

- ・「暮らしを支援する」という視点において管理者以外で地域活動に参加し、地域を理解しようと働きかける従業員が育った。
- ・地域に向けた企画を実践 (流しそうめん)、衛生面で大きく地域への呼びかけに至らなかったが入居者と共に地域へという考え方が芽生えた。

Work & Oasis 花筏 (就労継続支援 B 型)

※花筏拠点区分 (主)

利用者通所率について (事業定員 40 名 / 契約利用者 33 名)

平成 29 年度 (花筏・ふふふ)						平成 28 年度 (ふふふ)			
月	利用者数	開所日数	延人数	1 日当り	通所率	月	延人数	1 日当り	通所率
4	28	21	508	24.2	86.4%	4	464	22.1	92.1%
5	30	21	528	25.1	83.8%	5	446	22.3	92.9%
6	30	23	624	27.1	90.4%	6	520	22.6	90.4%
7	31	21	572	27.2	87.9%	7	497	23.7	94.7%
8	31	20	530	26.5	85.5%	8	503	22.9	91.5%
9	31	21	575	27.4	88.3%	9	433	21.7	86.6%
10	31	22	574	26.1	84.2%	10	459	21.9	87.4%
11	31	21	564	26.9	86.6%	11	479	22.8	91.2%
12	31	21	572	27.2	87.9%	12	480	22.9	91.4%
1	32	19	530	27.9	87.2%	1	443	22.2	88.6%
2	32	20	505	25.3	78.9%	2	471	22.4	89.7%
3	33	22	565	25.7	77.8%	3	520	22.6	90.4%
平均	30.9	21	554	26.4	85.4%	平均	476	22.5	90.6%
計	371.0	252	6,647	316.6	85.3%	計	5,715	269.9	90.6%

利用者入所 7 名 (花筏 5 名・ふふふ 2 名) 退所 1 名 ぎんなんから異動 1 名
ふふふから花筏への異動 9 名

【 活動実績 】

①利用者の増減

利用者 9 名で開所し、5 月に 3 名、7 月に 1 名、1 月に 1 名増員し計 14 名となった

②利用者工賃

3525 円/月

【 目標に対しての取り組みと成果 】

①食中毒等の問題なく、調理活動に取り組めた

食品衛生に配慮し、利用者主体の作業プログラムを作ることができ 8 種類ほどの商品を製造することができた (あんぱん、メロンパン、カレーパン、ラスク、クッキー、佃煮、ブラウニー、シフォンケーキ)。写真入りの工程表を使用する等の工夫から支援員の作業参加度は声かけ等の助言が 8 割、直接作業参加が 2 割の割合で取り組めた。

②利用者個々の働き方を追求する

バスが好きで趣味でバスの絵を描いている利用者の方の力を活かし、アートコンテストに出展

オリジナルカレンダーの作成に取り組み利用者工賃に反映することができた。この件が南海バスの方の耳に届き、南海バスの方から協働の話をいただいた。

③昼食作り

繰り返し行う事で援助なしでご飯が炊ける、味噌汁を自分で味付けする、包丁が使えるようになる等が可能となった。一人暮らしを目指す利用者からも「自炊の勉強になる」との声があった。

④地域との交流

花筏カフェ を利用者の方の工賃アップ、地域の方が気軽に足を運べる場所という事を目的に12月より毎週木曜日11:30~16:00でオープン。地域の方がのべ170人来店し(12月~3月)、カフェでの売り上げが110,000円(カフェでのテイクアウト商品も含む)あった。

地域とのつながりを大切にした事で様々なネットワークができ、商品開発ではラスクの専門家の方が訪問し、ラスクの作り方を利用者、支援員に伝授。株式会社グランドリミットと協働でバオバブクッキーの製造を行うなどの協力を得た。8月には佐野高校の高校生にパン作り体験を開催し、3月には放課後デイのハピスポさんの利用者の方7名にラスク作り体験をおこなった。

⑤事業所のPR活動

事業所の方針や活動内容がわかりやすく伝わる様パンフレットを作成し、見学等に活用した。

また、事業所の紹介を利用者から話す事により、事業所で過ごす利用者の生の声が届き、実際の作業の状況等がイメージしやすいと声をいただいた。今年度40名以上の方の見学があった。

ふふふ（就労継続支援 B 型）

※花筏拠点区分（従）

【 活動実績 】

①利用者の増減

利用者 18 名で開所し 3 月に 1 名減員し計 17 名となった

②利用者工賃 4314 円/月

作業収入の割合

内職 53% ポスティング 15% 野菜 8% 印刷 4% 廃品回収 20%

【 取り組みと成果 】

○収入増にむけて

3 分の 1 の利用者が花筏へ異動し、作業工程ごとの人数に偏りが発生したが、作業訓練やマンツーマン指導の対応で役割変更出来た利用者が数名おり、作業スピードが上がり、当初の予定より 10 パーセント収入が増えた。

○地域とのつながりで出来た取り組み

～佐野高校のユネスコ部と共同で取り組んだ「水ナスプロジェクト」～

農業の体験ボランティアで訪れた佐野高校ユネスコ部の部員と話をした際、「水ナスを地域の魅力として栽培し、もっと発信したい」という思いを聞き、ふふふの農地での共同栽培をスタートした。ふふふの利用者と佐野高校の生徒が協力し栽培を進め、途中からプロの農家（奥農場）の協力を得て栽培状況を SNS で発信した。少しずつ注目され、泉州国際化フォーラムにも共同出展した。また、佐野高生が水ナスプロジェクトの活動を高校生ボランティアアワードで発表し、アジアユースサミットでは優秀賞を受賞した。交流も深まり、佐野高校の文化祭に招待を受けて参加できた。いちよの森フェスタでは、ダンス部がダンスパフォーマンスを披露し、ユネスコ部がボランティアスタッフとしてご参加いただいた。

○事業所移転準備と活動の見直し

30 年度の事業所移転に向けて現在の活動の見直しとビジョンの作成に取り組み大切にしてきた利用者主体、事業所内の雰囲気作りチームとしての力の発揮をベースに「働く」を通して日常生克の充実をはかる、社会人として幅広い経験のできる場所という目的で進める方針を法人幹部だけでなく支援員も含めて 1 から作り出した。

給食

食の安全性と栄養面の確保を行った給食の提供を基本とし、29年度はアンチエイジング(老化防止・予防)を中心に、食材の世界を広げ、楽しみや美味しさに繋がる取り組みを行った。また、食の環境作りとして食堂の改装を行った。

【安心・安全な食事提供(個別対応と衛生管理)】

(留意点)

食は心身の健康維持増進に欠かせないため、看護師、支援員と相談、日々の食事摂取状況を確認にし、改善工夫を重ね、個々に応じた食事提供(食事形態・量など)を行った。また、食中毒・感染症蔓延予防のため厨房内の清掃、原材料の検収、中心温度チェック等の衛生管理と調理従事者の健康管理を行い記録し、食の安全性の確保を行った。

(結果と課題)

個別対応は毎日の食事摂取の状況確認、食べるところを見に行く、支援員や看護師としっかり連携をとることを行った。また、調理師も食事作りの改善と工夫を積み重ねることで食事形態(ペースト食)の確立や個々の食の幅(食べなかったものが食べるようになる)が広がった。今後、年齢を重ねて行く上で身体状況の把握、食事形態の変化に対応できるよう調理技術や知識を学んでいき食の安心・安全性を維持・向上に努める。

【食を通して楽しみを伝える(アンチエイジングと食材の世界)】

① 五感を育み活用した食

(留意点)

栄養バランス、季節の食材、様々な食材や食材の組み合わせ、見た目の美しさなどを考えた献立作成を行い、食に対する楽しさや驚きを感じられるよう心掛け実施した。29年度はアンチエイジングの1つとして旨味のダシに着目しカツオや昆布ダシ以外にもにぼしのダシを取り入れた。また、食の世界として「チョコレート」や「いちご」「A5の牛肉」などを取り入れたイベントを行った。

(結果と課題)

お誕生日に好きなメニューをリクエストできるバースデイメニューやデザートがプラスされるバースデイプラスは楽しみの1つの給食となっている。行事食やイベントも季節感やその時のテーマに合わせたメニューを考え実施した。初めての食材によっては見た目の可愛さ、口どけがよい、あつという間に完食したなど食の幅の広がりや新たな味など五感を活用した食事提供が出来た。29年度はバレンタインで「チョコレートの世界」を女子会で行う予定だったが食堂改装の工事期間と重なり、結果全員が対象となるチョコレートイベントに変更した。食材という点では身近にある地域の特産物や今まで使用したことない食材を取り入れることが出来たので来年度はその部分を考え取り入れる。また、月1回オープンしているカフェはスイーツを出す計画だったが、バースデイプラスのデザート作りに重点を置いたため結果毎月出すことが出来なかった。デザート作りの時間や内容、手作りにこだわる必要性などを考え直し来年度のカフェの提供の仕方、在り方を考える。

② ご家族や地域との交流

(留意点)

利用者さんのご家庭での様子、食についての意見交換などご家族とのコミュニケーションをとること、また食を通し地域お店などとコミュニケーションをとり五感を育む食に繋がるよう実施した。

(結果・課題)

試食会ではご家族の方には給食の取り組みや給食を作る上でこだわっていること（例：かつおや昆布のダシをとっている・魚は冷凍ではなく生の魚を使うなど）を話した。

そのことで、「家庭でも手間をかけてみよう」という声が多く聞け、お母さんの意識の変化の表れがあった。給食での個別対応により、「今まで家では食べなかったものが少しずつでも家族と一緒にものを食べようとする気持ちになったことが嬉しい」という声もあり、日々の給食での取り組みが成果の表れた結果になった。

また、むか新さんのご協力により、29年度は和菓子教室に加え、厨房スタッフ対象で和菓子講習会を行った。プロの和菓子職人さんから学ぶことで、作業工程のポイント、お菓子作りへの楽しさや探究心、工場見学により食品衛生面の保たれ方も学んだ。学んできたお菓子はカフェやバースデイプラスで提供した。

今後も食を通して地域の人に健康で暮らす、自分らしく生きること、楽しみを伝える役割を目指す上で地域交流としてご家族の方や地域の方が多く参加すること、どのように交流を広げるかが大きな課題である。

③ 食の環境作り

(留意点)

給食をより楽しめる環境作りの1つとして食堂改装を行った。

(結果と課題)

平成30年2月8日～2月15日で第1期食堂改装を完了した。今回は厨房のカウンター周りや食堂周囲の色・収納スペースを中心に行い、今までの雰囲気とは異なる施設の食堂ではなくカフェの雰囲気が漂う食堂となった。また、新しく冷蔵ショーケースも入りこれからの給食の提供方法に新たな一面を（ex.自分でショーケースを開けて食べたいものを取るなど）取り入れる。今後、食堂改装は5か年計画で進める。

【人材育成】

(留意点)

6か月ごとに新しいメニューを決めての調理スキルの向上とシフト調整なども行い、フォローし合えるチームを目指し取り組んだ。

(結果と課題)

調理スキルは目標を持つことでそれぞれのレベルに合わせて習得できた。調理以外での担当（役割）も決め、報連相や見落とし、確認など当初は指摘する点が多かったが、忘れていた時はフォローと声かけにより、1年を通し担当をスムーズに行えるようになった。また、昨年から続けているデザートプラスのデザート作り（立案から実行まで）では、細部にわたっての準備や確認などで作る楽しさより考えるしんどさの方が大きかったようだが、改善を重ね良いものの提供をしっかりと考え行っ

てきた。その結果として利用者・従業員が楽しみにするものとなった。今後、厨房スタッフ全員が先を見通して仕事ができる、気付きや変化に疑問を持つなど考えて動けるチームになるようそれぞれのレベルに合わせ指導する。

【まとめ】

29年度はアンチエイジングを中心に調味料や食材にもこだわり給食作りに取り組んだ。栄養だけがアンチエイジングになるのではなく、楽しく美味しく食べることもアンチエイジングに繋がる。個別対応をしっかりとる・バースデイメニューや様々な行事食では季節感やテーマに合わせ料理や見せ方を工夫する・食べる場所の変化など食べる人が楽しさや驚きを感じられるよう行ってきた。また、給食だけでなくグループホームの食事改善にも取り組み、献立表の配布、新鮮な食材の購入、食材の在庫管理導入など改善や見直しを行い食事内容の幅が広がり充実になった。このような取り組みをする上で人材のスキルアップ、チームワークは欠かせない。目標を持ってスキルアップをし、厨房全体で「食」を通して楽しみを伝え、健康で暮らす、自分らしく生きることを一緒に携わる。

【給食概要】

① 食数(生活介護)

2016年	利用者(食)	従業員・その他(食)	合計(食)	給食実施日数(日)	平均(食)
4月	1042	681	1723	22	78.3
5月	999	644	1643	21	78.2
6月	1144	687	1831	24	76.3
7月	949	677	1626	24	67.8
8月	851	552	1403	20	70.1
9月	996	614	1610	23	70.0
10月	975	725	1700	23	73.9
11月	896	598	1538	22	69.9
12月	911	665	1576	22	71.6
2017年1月	809	552	1416	20	70.8
2月	757	516	1273	19	67.0
3月	920	575	1495	23	65.0
計	11,249	7,585	18,834	263	71.6

② 栄養摂取状況(平均)

エネルギー	たんぱく質	脂質
609kcal	23.3g	14.2g

③ 食事形態(利用者のみ)

普通食	26名
一口大	15名
刻み食	4名
ペースト食	1名
アレルギー食	1名
おにぎり	3名
お粥	2名

④ 行事食と地域交流

日時 (29年)	内容	場所	協力/交流
4月1日	新利用者歓迎会 春爛漫幕の内弁当		
4月14・18・19・20・ 21・24・26	給食試食会	ぎんなん	ご家族
5月6日	新緑のお茶会 新緑弁当	ぎんなん	
6月5日	和菓子教室	ぎんなん	むか新さん
6月12日	和菓子講習会	むか新羽倉崎店	むか新さん
7月1日	流しソーメン		
8月19日	瓶踊り	夢夢夢	地域の方
10月27日	いちょうの森フェスタ	ぎんなん	地域の方
12月2日	クリスマスランチ 大人様ランチ	ぎんなん	
平成30年1月6日	成人祝う会 お祝い幕の内弁当		
1月20日	新春もちつき大会	夢夢夢	民生委員 地域の方
1月24日 1月26日	生け花会 初釜 初釜弁当	ぎんなん	上之郷保育園
2月3日	A5のお肉を食す すき焼き・しゃぶしゃぶ	ぎんなん	
2月23日	チョコレートの世界	ぎんなん	
3月16日	いちごフェア	ぎんなん	

※4・6・7・8・9・10・11・12・2・3月はカフェをオープン

事務

【人材育成】

平成 28 年度に新しい事務員 2 名が入社して事務員 5 名となり、より広い範囲での業務分担が可能となった。事務管理者が行っている実務については、他の事務員 4 名へ引継ぎを行い、事務管理者は管理業務に専念できる体制を整えた。

(結果と課題)

事務管理者は法人全体の課題・問題点への対応が可能となったが、平成 30 年 3 月末で入社した事務員 1 名が退職となり、事務員 1 名を補充した。新しい職員の定着やモチベーション向上、職場のコミュニケーションへの対策が不十分であった。

【IT管理方法の整備】

情報漏洩やウイルス感染などの IT における脅威に対応すべく、専門業者から IT コンサルティングの指導を受け、IT 管理方法を整備した。

- ・ IT 資産の洗い出し、資産管理表作成
- ・ 全ての IP アドレスを固定化
- ・ ウイルスソフト変更および PC ウイルス感染除去
- ・ ホームページリニューアル
- ・ 複合機印刷トラブル解決
- ・ UPS 機器故障により新 UPS へ切り替え

(結果と課題)

IP アドレス固定化により、IP アドレス重複によるアクセストラブルを改善し、業務に支障が出ないようになった。「パソコンが動かない」「不明な表示が出ている」といったトラブルもリモートでトラブル対応ができた。

コンサルティングにより IT 管理者の育成や従業員への IT 教育を行う予定だったが、IT の変化が早く、コンサルティング脱却には至らなかった。

【人事評価制度定着化】

平成 28 年度に改定した人事評価制度の本格導入を行い、新制度の定着化を行った。日頃の成果が客観的に具体的数値をもって評価されることで、従業員が納得しやすい制度を目指した。

(結果と課題)

評価基準項目を設けることで「何を行えば評価につながるか」が明確になり、統一感を持った評価書となった。100 点満点から 600 点満点にすることで、優劣を見分けやすくなった。

評価者によってばらつきが大きく、評価者の教育と意識の統一が喫緊の課題である。公正で納得感の高い評価、部下の仕事への意欲を低下させないような評価の方法を学ぶ必要がある。

【請求ソフトの導入】

旧請求ソフトは平成 30 年 3 月末でサポート終了のため、新しい請求ソフトの導入を行った。支援ソフト（利用者支援や看護の記録などができるソフト）の将来的導入を見越し、請求・支援ソフトは互換性を持つことができるものとした。

(結果と課題)

リース料は月 35,000 円を予定していたが、台数や無駄な機能を制限し、月 27,000 円に抑えることができた。

最も懸念された切り替え月においては、2 か月間の検証で新旧ソフトのデータ整合がとれ、12 月請求からは新ソフトでのみ請求を完了させた。

旧ソフトでは市町村請求と利用者請求が分かれていたが、1 つのソフトに統合することで入力作業の削減が行えた。旧ソフトは口座引落においても対応できていなかったが、入力したデータがインターネットバンキングにそのまま取り込めるため、引落作業についても業務削減となった。

操作性・機能性において、問題となる課題はない。

【まとめ】

事務所内における業務整理については事業計画に沿って進めることができたため、安定した業務遂行につながった。しかし、法人の財務基盤強化（補助金申請や介護給付費の積極的・合法的増加）については必要最低限の取り組みのみでとどまっており、平成 30 年度も引き続き事業計画として掲げる。